

「2021 年秋の大会」企画セッション 見どころ

委員会セッション

1. [3A_PL] 理事会

原子力の価値と学会の果たすべき役割を改めて考える

(9月10日(金) 13:00 ~ 14:30 A会場) 座長(東北大) 新堀 雄一

- (1) 原子力の価値を測る (東大) 山口 彰
- (2) 原子力の未来像 WG の取り組み (東大) 村上 健太
- (3) 総合討論

司会：(東北大) 新堀 雄一、(東工大) 西山 潤、(東京都市大) 羽倉 尚人、(東京電機大) 寿楽 浩太、
(MHI) 白木 貴子、(千葉大) 神里 達博、(東大) 山口 彰、(東大) 村上 健太

これまで、原子力の価値と学会の果たす役割について正面を切って議論することは原子力学会の大会においても多くない。本セッションの見どころは、本課題に関する2つの講演の内容と様々なバックグラウンドを持つパネリストの多様な意見や取り組み、さらには会場からの関連する意見を共有し、エネルギー基本計画の見直しの議論をも背景に、次の時代に向けた原子力および学会の方向性の議論を学会内外の視点から深めていくことにある。

本セッションでは、講演者やパネリストによる意見交換を経て、会場からの質問や意見もチャットなどを通じて頂戴し、可能な限り、会場とパネリストとの対話も進めていく。

2. [3E_PL] 標準委員会

標準委員会の基本方針と今後の戦略について

(9月10日(金) 13:00 ~ 14:30 E会場) 座長(東大) 関村 直人

- (1) 標準委員会の基本方針 (名大) 山本 章夫
- (2) 規格基準に対する事業者の期待と今後の取り組み (電事連) 山中 康慎
- (3) 事例検討 ー外的事象にかかる標準ー (東大) 高田 孝
- (4) 総合討論 講演者全員

東京電力福島第一原子力発電所事故から10年を経て、原子力学会標準を取り巻く状況は大きく変化している。2020年4月からの新検査制度と継続的な安全性向上の取り組み、規制委員会による学協会規格の技術評価、学協会規格の整備への電気事業者の積極的な参画、民間ガイドラインの整備・活用、などがある。事故10年を越えて将来に向けた標準委員会の活動戦略を改めて検討すべきタイミングである。そこで、「外的事象安全にかかる規格、標準の基本的考え方」を事例に、標準の策定と関係組織(規制機関、事業者、研究機関、産業界)による活用について意見交換を行い、標準委員会の今後の活動に役立てる。

3. [1J_PL] 倫理委員会

よりよい組織文化を目指して

ー倫理規程改定と東京電力の核物質防護設備の不備等の一連の問題から考えるー

(9月8日(水) 13:00 ~ 14:30 J会場) 座長(JAEA) 伊藤 公雄

- (1) 倫理規程改定の概要 (原電) 神谷 昌伸
- (2) 倫理委員会での議論 (JAEA) 大場 恭子
- (3) 安全と核セキュリティと組織文化 (電中研) 稲村 智昌

日本原子力学会では、本年5月に7回目となる倫理規程改定を行った。今回の改定は、前回改定(2018年)以降のメーカー等の品質不正問題、関電金品授受問題、東電1F事故に関わる動向、さらにはこれらの問題等の背景要因として共通する組織文化などに論点をおいて倫理委員会で検討を進めた。そのような中、本年2月には、東電柏崎刈羽

における核セキュリティ上の問題が公になり、組織的な背景について懸念されるところである。

本セッションでは、今回の倫理規程の改定内容を紹介するとともに、安全と核セキュリティと組織文化に関する講演も踏まえ「よりよい組織文化」を目指して前向きな議論を試みる。

4. [2E_PL] 福島第一原子力発電所廃炉検討委員会

1F 廃炉に向けた技術開発の現状

(9月9日(木) 13:00 ~ 14:30 E会場) 座長(東大) 関村 直人

- (1) 公開シンポジウム報告 (東電 HD) 中野 宏之
- (2) 英知事業の取り組み (JAEA) 田川 明広
- (3) Topics on Decommissioning Researches —Analysis of sim-debris of the bundle degradation tests— (JAEA) Anton Pshenichnikov
- (4) IRID の研究開発概況 (IRID) 奥住 直明

これまで当委員会の活動として、学会企画セッションにて、分科会の活動状況、福島第一原発の現状、廃炉ロードマップ・技術戦略プラン、技術開発の動向等について報告・発信してきた。本セッションでは、1F 廃炉を進める上で必須である技術開発に焦点をあて、講演を頂く。講演は、基礎・基盤研究開発から早期現場適用を目指した技術開発までの流れとして、英知事業の研究開発における成果、JAEA における近年の注目技術開発、IRID における技術開発の概況について紹介頂き、各講演内容について専門家の視点で議論を行う。また、廃炉委の活動報告として、今年6/12 に開催した公開シンポジウムの実施報告を行う。

5. [2B_PL] 福島特別プロジェクト

福島復興・再生に向けて —福島特別プロジェクトの活動—

(9月9日(木) 13:00 ~ 14:30 B会場) 座長(福島特別 PJ) 藤田 玲子

- (1) 福島特別プロジェクトのこれまでの活動と今後 (福島特別 PJ) 藤田 玲子
- (2) 学校教育への協力・支援活動について (大林組) 八塩 晶子
- (3) 国の復興支援による地域活性化について (原環セ) 布目 礼子
- (4) 総合討論

福島特別プロジェクトは、2012年6月に設立され、福島の住民が少しでも早く帰還できるよう、住民と国や県との間のインターフェースの役割を果たすべく、原子力の専門家集団としての正確でわかりやすい情報発信などに努めてきました。昨年度からは、新たな活動として浜通りの再生・復興への協力、福島県における学校教育への協力・支援、国が進めている復興支援による地域活性化について実施状況の把握などを行っており、住民の生活に直結した課題のみならず、周辺地域や、幅広い視点に立った活動を展開していきたいと考えています。本セッションでは、福島高専への協力やアンケート調査結果を中心に報告し、今後の活動のあり方など、意見交換を行いたいと考えています。

部会・連絡会セッション

1. [1I_PL] 炉物理部会

実験炉・研究炉による炉物理研究の将来

(9月8日(水) 13:00 ~ 14:30 I会場) 座長(JAEA) 郡司 智

- (1) 試験研究炉検討会による試験研究炉を対象とした炉物理研究推進のための要望の報告 (阪大) 北田 孝典
- (2) 将来の炉物理研究炉に対する若手の意見 (名大) 遠藤 知弘
- (3) 実験炉・研究炉を活用した炉物理研究の将来に対する問題提起

もんじゅサイトへの新たな試験研究炉の設置に関する具体的な検討の開始を受けて、炉物理部会では試験研究炉の具体的な設計検討に反映すべき要望を取りまとめるための「試験研究炉検討会」を令和3年3月に設置し、幅広い意見の集約ならびに議論を実施している。

本セッションでは、試験研究炉検討会における検討結果ならびに取りまとめた要望、次代の炉物理研究を担う若手を中心に実施したアンケート結果ならびに集約した意見について報告を行うとともに、実験炉・研究炉の活用した将来の炉物理研究に関する問題提起と議論を行う。

2. [2L_PL] 核融合工学部会

JT-60SA プロジェクトの現状

(9月9日(木) 13:00 ~ 14:30 L会場) 座長(阪大) 上田 良夫

- | | |
|------------------------|-------------|
| (1) JT-60SA プロジェクトの概要 | (QST) 森山 伸一 |
| (2) 本体機器装置 | (QST) 芝間 祐介 |
| (3) マグネット冷凍機システム | (QST) 濱田 一弥 |
| (4) 電源システムと高周波加熱装置 | (QST) 高橋 幸司 |
| (5) 統合コミッショニングの進捗と増力計画 | (QST) 諫山 明彦 |

JT-60SA 計画は、国際熱核融合実験炉 (ITER) 計画を補完・支援するものとして日欧共同で取り組む「幅広いアプローチ (BA)」活動の一つであるサテライト・トカマク計画と国内重点化装置計画の合同計画である。

本セッションでは、ITER に次ぐ大型超伝導トカマク装置である JT-60SA の主要機器、すなわち真空容器、超伝導コイル、冷凍機、電源などの機器製作と高精度の装置組立の完了について総括するとともに、統合試験運転の進捗とその後の増力計画について報告する。

3. [1D_PL] 核燃料部会

核燃料の今後の展望 — 討論バージョン —

(9月8日(水) 13:00 ~ 14:30 D会場) 座長(京大) 黒崎 健

- | | |
|---------------------|---------------|
| (1) 多様な燃料形態と研究開発の展望 | (京大) 黒崎 健 |
| (2) 軽水炉燃料 | (福井大) 宇埜 正美 |
| (3) MOX 燃料 | (JAEA) 前田 誠一郎 |
| (4) 金属燃料 | (電中研) 尾形 孝成 |
| (5) 窒化物燃料 | (JAEA) 高野 公秀 |
| (6) 高温ガス炉燃料 | (JAEA) 植田 祥平 |
| (7) 熔融塩燃料 | (福井大) 有田 裕二 |
| (8) 総合討論 | |

「核燃料の今後の展望 — 討論バージョン —」では、2021 年春の年会から継続して、軽水炉燃料、MOX 燃料、金属燃料、窒化物燃料、高温ガス炉燃料、熔融塩燃料の六つの燃料を議題として取り上げる。それぞれの燃料形態について「照射試験」に的を絞った研究開発の現状と課題を概説した後、それを基に総合討論を行う。本企画セッションは講演よりも討論に主眼を置いており、今後の核燃料開発に向けて、発表者と会場出席者による活発な議論が期待される。

4. [1A_PL] バックエンド部会

地層処分に関する安全コミュニケーション

(9月8日(水) 13:00 ~ 14:30 A会場) 座長(原安協) 朽山 修

- | | |
|---------------------------------|---------------|
| (1) なぜ、地層処分なのか? — セーフティケースの役割 — | (NUMO) 草野 由貴子 |
|---------------------------------|---------------|

- (2) セーフティケースへの情報統合 —NUMO 包括的技術報告書を例として— (NUMO) 藤山 哲雄
 (3) 安全コミュニケーションに関するパネル討論
 (原安協) 朽山 修、(神戸大) 飯塚 敦、(深田地質研) 下茂 道人、(広島大) 半井 健一郎、
 (阪大) 廣野 哲朗、(東海大) 若杉 圭一郎

地層処分事業では、事業者が事業の段階ごとに最新知見を反映して処分場の安全性を説明するための文書として「セーフティケース (Safety case)」を取りまとめ、それを拠り所として社会に対して繰り返し説明していくことが求められる。セーフティケースの内容は広範な科学技術分野にわたり、地層処分の安全確保の考え方に特有な論証構造を有しているため、各関連学術分野の専門家にとっても難解であり、安全コミュニケーションを進めるうえでの課題となっている。本企画セッションでは、地層処分の安全コミュニケーションの現状と課題を共有し、特に各関連学術分野の専門家間のコミュニケーションに焦点を当て、今後の取り組みなどについて議論する。

5. [2J_PL] 熱流動部会

熱流動評価技術における最新動向

(9月9日(木) 13:00 ~ 14:30 J会場) 座長 (早稲田大) 古谷 正裕

- (1) 高温ガス炉における熱流動設計の特徴と課題 (JAEA) 青木 健
 (2) 日立の新型炉 (BWRX-300, RBWR, PRISM) における熱流動評価技術の開発状況 (日立 GE) 上遠野 健一
 (3) 水素化物減速ヒートパイプ冷却超小型炉 MoveluX における熱流動分野の取り組みと課題 (東芝 ESS) 木村 礼
 (4) 熔融炉心の拡がり挙動に係る熱流動解析の特徴と課題 (MHI) 竹内 淳一

「脱炭素化社会」に向けて、原子力分野でも安全性を向上しつつ、再生可能エネルギーとの共存、水素の製造、熱エネルギーの利用といった多様なニーズに応え得る新型炉の開発が進められている。新型炉の開発は従来の軽水炉/高速炉で培われた技術をベースとしているが、解決すべき様々な課題も残されている。各機関で実施されている新型炉開発やシビアアクシデントに関連する最新の技術動向を紹介するとともに、今後解決すべき熱流動分野での課題を議論する。

6. [3H_PL] 放射線工学部会

福島原発事故後 10 年間の放射線工学分野における活動と今後の展望

(9月10日(金) 13:00 ~ 14:30 H会場) 座長 (JAEA) 佐藤 優樹

- (1) 福島第一における放射線計測・遮蔽に関する現状と今後の課題 (東電 HD) 高平 史郎
 (2) 1F 事故後に開発・適用された放射線の計測・マッピング技術 (福島大) 鳥居 建男
 (3) 放射線遮蔽の知見による線源推定 (KEK) 平山 英夫
 (4) 議論 (JAEA) 佐藤 優樹

2011年3月に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故から、今年で10年が経過した。これまでの除染作業の進捗により周辺環境の空間線量率は大きく低下した一方で、炉心からの燃料デブリ取り出し及び継続して発生する汚染水の処理・処分等、廃炉に向けた課題は数多く残されている。

本セッションでは、廃炉作業の現状及び関連した計測・遮蔽分野の研究開発に関する講演の後、今後の展望を交えて議論を行う。

7. [1G_PL] 加速器・ビーム科学部会

北海道における加速器開発とビーム利用に関する最近の話題

(9月8日(水) 13:00 ~ 14:30 G会場) 座長 (QST) 増田 開

- (1) 北大病院における陽子線治療の現状と治療の高精度化を目指した研究開発について (北大) 松浦 妙子
- (2) 北大電子線形加速器の更新とパルス中性子源「HUNS-2」の現況 (北大) 加美山 隆
- (3) 北大電子線形加速器駆動パルス中性子源「HUNS」の最近の利用研究 (北大) 佐藤 博隆

本セッションでは、本大会が現地開催されれば会場となる予定であった北海道における最近の加速器開発やビーム利用に関する話題をご講演いただきます。具体的には、1973年の完成以来45年の長きに運用され2018年に更新された北大電子線形加速器の現況とパルス中性子源 HUNS の利用研究について、また、2014年の開設以来治療人数を順調に増加させてきた北海道大学病院陽子線治療センターでの陽子線治療に用いられている最先端技術について、それぞれ最新の情報と今後の展望をお話しいたします。

8. [3M_PL] 社会・環境部会

2020年度社会・環境部会賞受賞記念講演

(9月8日(水) 13:00 ~ 14:30 K会場) 座長(関西大) 土田 昭司

- (1) 放射性廃棄物処分における核種移行評価パラメータの定量化手法
—専門家意見聴取の活用事例調査— (電中研) 中林 亮、杉山 大輔
- (2) 1F事故後の復興へ向けて (慈恵医大) 越智 小枝
- (3) 社会調査で明らかになること／ならないこと (岡山大) 齋藤 圭介
- (4) 意思決定、組織行動、原子力政策などの研究を通じた原子力業界への示唆 —原子力をナッジする—
(山梨県立大) 松井 亮太

2020年度社会・環境部会賞の対象になった活動や研究について紹介する。(1)は専門家からの意見聴取をふまえた上での活用事例調査の結果を、中林亮氏(電中研)から紹介いただく。(2)は越智小枝氏(慈恵医大)による1F事故後に復興へ向けたさまざまな活動のうちいくつかのエピソードを紹介していただく。(3)では原子力学会誌上で長期にわたる連載をしてきた社会学者の齋藤圭介氏(岡山大)に話題を提供していただく。(4)では松井亮太氏(山梨県立大)より、原子力をテーマとした意思決定をする際に行動科学的な手法を応用することで、行動変容を促す言説を紹介いただく。

9. [1M_PL] 保健物理・環境科学部会

大気拡散モデルの原発事故環境データによる評価とその緊急時応用

(9月8日(水) 13:00 ~ 14:30 M会場) 座長(名大) 山澤 弘実

- (1) 先端大気拡散モデルの現状と性能評価 (北大) 佐藤 陽祐
- (2) 大気拡散モデルの応用 (JAEA) 寺田 宏明
- (3) 大気拡散モデルの緊急時利用法の検討 (名大) 山澤 弘実

大気拡散モデルは、東電福島第一原子力発電所事故の影響解析の重要項目において大きな役割を担ってきた。また、事故の環境データを用いたモデル検証・評価及び改良が進められ、事故後10年を経過した現時点では多くのモデルが淘汰・改良された。一方、モデルには無視できない不確かさが残されており、モデル利用の大きな足枷となっている。本セッションでは、環境研究総合推進費 1-1802 で進められてきた原発事故データを用いた国内外の先端的大気拡散モデルの性能評価結果を概観し、原子力環境安全分野での大気拡散モデルの緊急時における放出源推定や拡散予測での利用可能性を議論する。

10. [3D_PL] 材料部会

照射炉利用関連研究開発の現状と国内照射炉の必要性 (2)

(9月10日(金) 13:00 ~ 14:30 D会場) 座長(東電HD) 児玉 光弘

- (1) 京大複合研新型研究炉開発・利用センターと新試験研究炉における幅広い利用について

- (京大) 日野 正裕
 (2) もんじゅサイトに設置する新たな試験研究炉の検討状況 (JAEA) 峯尾 英章
 (3) 材料照射研究における国内照射炉の必要性 —海外炉の利用経験から— (東北大) 外山 健、山崎 正徳
 (4) 総合討論 (福井大) 福元 謙一

各種原子炉材料の実用化研究開発において、照射試験炉を用いた照射試験は不可欠である。国内において大型照射炉による材料照射の機会はなく、今後 10 年余は導入計画もない。そのため、現状で稼働あるいは導入計画中の中型炉利用による材料照射について検討する必要がある。本企画セッションでは、京大炉を利用した材料照射研究やもんじゅ跡地建設予定の試験研究炉の現状など、中型炉利用による材料照射試験に関わる話題について紹介し、今後の中型炉利用による材料照射試験のあり方や課題について議論する。

11. [3F_PL] 原子力発電部会

エネルギー基本計画の見直しを見据えた産業界の安全性向上に係る自主的な取り組み

(9月10日(金) 13:00 ~ 14:30 F会場) 座長 (東海大) 堺 公明

- (1) 安全性向上のための ATENA の取り組み (原子力エネルギー協議会) 鈴木 孝守
 (2) 安全性向上のための JANSI の取り組み (原安進) 渥美 法雄
 (3) 中部電力における自主的安全性向上の取り組み (中部電力) 堤 喜隆

国の中長期的なエネルギー政策の方針である「エネルギー基本計画」の見直しが、「安全性」を大前提として進められている。原子力では、産業界全体での自主的な取り組みによる不断の安全性向上が重要視されており、「エネルギー基本計画の見直しを見据えた産業界の安全性向上に係る自主的な取り組み」をセッションテーマとして、産業界の代表から講演頂く。

- ・産業界が一体となって取り組むリーダーとしての ATENA の取り組み (講演 1)
- ・産業界の総意に基づき自主規制組織として設立された JANSI の取り組み (講演 2)
- ・サイト特性に合わせた追加安全対策及び廃止措置プラントを活用した研究の知見の反映等の中部電力の取り組み (講演 3)

12. [3G_PL] 計算科学技術部会

原子力における仮想空間の活用

(9月10日(金) 13:00 ~ 14:30 G会場) 座長 (JAEA) 鈴木 喜雄

- (1) バーチャル原子炉実習の紹介 (近畿大) 若林 源一郎
 (2) 過酷事故解析コード SAMPSON の最新動向 (エネ総研) 茶木 雅夫
 (3) デジタルツインにおける V&V (東大) 越塚 誠一

第 5 期科学技術基本計画で提唱された Society5.0 ではサイバー空間と現実空間を高度に融合させたシステムによる課題解決が求められており、原子力業界においても VR(バーチャルリアリティ)システムやデジタルツイン構築に向けた研究開発が行われている。これらのバーチャル技術においては、現象の進展を機構論的または現象論的に予測するシミュレーション技術が必要不可欠である。本セッションでは、バーチャル実習、シミュレーション技術、V&Vなどをテーマとした講演を行い、原子力業界における仮想空間の活用に向けた課題などについて議論を行う。

13. [1E_PL] 原子力安全部会

福島第一原子力発電所廃炉への水化学からの取り組み

(9月8日(水) 13:00 ~ 14:30 E会場) 座長 (名大) 山本 章夫

- (1) 原子力安全部会 WG でとりまとめた外的事象に関する今後の課題 (東大) 山根 正嗣、(ATENA) 宮田 浩一
 (2) 事業者における取り組み (関西電力) 国政 武史

- (3) 規制における取り組み
(4) 総合討論

(規制庁) 谷川 泰淳

原子力安全部会は、2019年7月に「外的事象に対する安全確保の高度化WG」を設置し、自然事象を中心とした外的事象特有の課題の抽出と、海外における対応などの調査を踏まえ、日本の国・電力事業者・規制の対応を再検討した。その結果は、3分類・11項目の提言に纏められ、公開されている。企画セッションでは、WGの活動内容や提言を説明すると共に、事業者と規制の立場から外的事象に対する取り組みをご紹介頂く。総合討論では、幅広い関係者からのフィードバックを得ながら、今後深掘りして議論する点を抽出する。

14. [3K_PL] 新型炉部会

原子力イノベーションを支える最新の新型炉開発の状況

(9月10日(金) 13:00 ~ 14:30 K会場) 座長 (MFBR) 伊藤 隆哉

- | | |
|------------------------------------|---------------|
| (1) 最新の国内外の新型炉開発の状況 | (JAEA) 山野 秀将 |
| (2) 早期実用化と機動的運用が可能な蓄熱型小型モジュール高温ガス炉 | (東芝 ESS) 鈴木 哲 |
| (3) 炉心溶融のない高温ガス炉コジェネプラント | (MHI) 須山 和昌 |
| (4) 安全性・信頼性を高めた小型ナトリウム冷却高速炉 | (MHI) 坂場 弘 |
| (5) 固有安全性を活用した革新的金属燃料小型ナトリウム冷却高速炉 | (日立 GE) 中原 宏尊 |
| (6) 国内燃料サイクル柔軟性拡大へ寄与する軽水冷却高速炉 | (日立 GE) 日野 哲士 |

近年、国内外において革新炉導入に向けた活発な動きが見られる。我が国では、経済産業省により、2019年度から「社会的要請に応える革新的な原子力技術開発支援事業」が開始され、民間の活力を活かした革新炉の開発に繋がる研究開発の促進に向けて事業成立性に関する調査研究が進められている。新型炉開発は原子力研究・開発の将来を開拓する技術分野であり、現在、原子力業界に求められているイノベーションの実現を目標としている。本セッションでは、主要な開発国を対象に国内外の最新の開発動向を紹介するとともに、国内の民間事業のうち、高温ガス炉、ナトリウム冷却高速炉、軽水冷却高速炉の開発状況を学会員と共有する。

15. [2G_PL] リスク部会

将来にわたる確率論的リスク評価の活用のために

—リスク活用研究専門委員会からの提案、並びに今後の研究動向について—

(9月9日(木) 13:00 ~ 14:30 G会場) 座長 (JAEA) 丸山 結

- | | |
|--------------------|------------------|
| (1) ASRAM2020の動向報告 | (原安進) 久保 重信 |
| (2) PSAM15の動向報告 | (東大) 大橋 弘史 |
| (3) 研究専門委員会の提案(1) | (東京都市大) 牟田 仁 |
| (4) 研究専門委員会の提案(2) | (東芝 ESS) 當房 拓朗 |
| (5) 国内研究機関の研究動向(1) | (JAEA) 玉置 等史 |
| (6) 国内研究機関の研究動向(2) | (アドバンスソフト) 氏田 博士 |

PRAの技術高度化に関する最新知見の有用性を専門家により評価するとともに、得られた情報をPRAに関わる組織で共有し、効果的・効率的なPRA手法の発展に資する事を目的とする「確率論的リスク評価の活用及び手法調査」研究専門委員会における調査結果に基づき、PRA技術の活用・高度化に関する提案を行うとともに、国内研究機関の研究動向を紹介する。また、2つの国際学会PSAM15とASRAM2020におけるPRA技術高度化の最新情報を紹介することにより、PRAの技術開発・活用に関する課題と今後の検討方針について議論を深める。

16. [2A_PL] 海外情報連絡会

第4世代原子力システム国際フォーラム(GIF)の活動と今後の方向性

(9月9日(木) 13:00 ~ 14:30 A会場) 座長 (MHI) 神崎 寛

- | | |
|---------------------------------------|--------------|
| (1) 第4世代原子力システム国際フォーラム(GIF)の活動と今後の方向性 | (JAEA) 上出 英樹 |
|---------------------------------------|--------------|

GIF (Generation-IV International Forum) は、第 4 世代原子炉の開発推進を目的とした国際協力機関であり、現在、日米仏露など世界 13 か国と 1 機関 (EU) が加盟している。第 4 世代原子炉の開発目標とこれを満たし得る 6 炉型 (ナトリウム冷却高速炉、超高温ガス炉など) を選定し各開発ロードマップを策定するとともに、①安全設計と国際標準としての規制への貢献、②第 4 世代炉の社会市場での魅力の向上、③R&D 協力の一層の促進、④GIF 成果の世界への発信、について活動を進めている。更に、新しい取組として、小型炉 (SMR)、革新製造技術・新材料 (AMME) へも活動を広げている。これらについて、2019 年 1 月から 3 年間の任期で GIF の議長を務めている講演者より概説する。

17. [2K_PL] 核不拡散・保障措置・核セキュリティ連絡会

国際社会の核不拡散等分野における日本の一層の貢献・邦人の活躍に向けて

(9月9日(木) 13:00 ~ 14:30 K会場) 座長 (京大) 宇根崎 博信

- (1) IAEA の現状と将来、そして日本人職員の活躍に向けた取組 (外務省) 齋藤 敦
- (2) IAEA における保障措置等核不拡散への取り組みとその経験(国際原子力機関勤務への勧誘)
(元 IAEA) 久野 祐輔

総合講演・報告

1. [2F_PL] 「シグマ」調査専門委員会[核データ部会共催]

「シグマ」調査専門委員会 2019、2020 年度活動報告

(9月9日(木) 13:00 ~ 14:30 F会場) 座長 (JAEA) 深堀 智生

- (1) 核データニーズの恒常的な把握 (九大) 執行 信寛
- (2) 核データ分野の人材育成 (東工大) 片淵 達也
- (3) 核データにおけるロードマップ中間報告 (JAEA) 中山 梓介
- (4) 海外の主要な核データファイルの動向 (JAEA) 須山 賢也

「シグマ」調査専門委員会では、グローバルな動向を調査・注視しつつ、我が国の核データ活動に対する大所高所からの俯瞰的検討や広い分野の内外学術機関との連絡、情報交換や学際協力体制の構築を行い、我が国の核データ活動の更なる発展に資するため、最新知見に係る調査活動を行った。本報告では、主な調査活動結果のうち、核データに関する要求リストサイト、人材育成、ロードマップ作成について報告する。また、核データ部会からのトピックスとして、海外における核データ整備の方向性および人材育成の戦略・状況や、それを踏まえた NEA データバンクとの協力を進める上での留意点などについての講演をいただく。

ポスターセッション

1. ダイバーシティ推進委員会

9月9日(木) 13:30 ~ 16:30

ダイバーシティ推進委員会では、多様性を重視した研究・職場環境の充実や働き方改革を推進することを目指し、所属や職種の枠を超えた情報交換のためのポスターセッションを開催しています。会期中にわたり、ダイバーシティ推進委員会 Web サイト内の専用ページにポスターを掲示し、Eメールでの質疑を受け付けるとともに、Web形式のポスターセッションと意見交換会を行います。テーマは「多様な働き方 (私の職場の一日)」で、多岐にわたる内容のポスター掲示が予定されています。本セッション聴講をご希望の方は、パネル閲覧用のパスワードをお送りしますので、奮ってお申し込みください。

申し込み方法はダイバーシティ推進委員会 HP (<http://www.aesj.or.jp/~gender/poster/2021-autum.html>) を

ご参照ください。

2. 学生連絡会

9月8日(水) 16:30 ~ 18:30 第1部

9月9日(木) 16:30 ~ 18:30 第2部

9月10日(金) 12:00 ~ 12:30 表彰式

学生連絡会主催の学生ポスターセッションはリモートで開催いたします。今回も日本全国から多くの学生が日頃取り組んでいる研究や学生活動等について報告をします。発表日程は 9/8 と 9/9 の二日あり、両日とも時間は 16:30～18:30 です。昨今の状況から学生が研究発表する機会は今中々ありません。1 人でも多くの専門家との議論が学生のモチベーションになります。お時間がございました際には是非ともご参加ください。なお、ご参加には申込が必要です。数分で終わりますので、申込フォーム (<https://forms.office.com/r/ZviuvGKsvd>) からご登録ください。